

故甲斐正巳氏に旭日单光章 地方自治の進展に功績

旧一の宮町議会、阿蘇市議会議員を4期16年の永きにわたり歴任し、地方自治の進展に功績があったとして、故甲斐正巳氏が旭日单光章を授章され6月14日、市役所で伝達式が行われました。

甲斐氏は、平成3年に旧一の宮町議会議員に初当選。平成11年には町議会議員を務め、平成14年に阿蘇中部4町村合併推進協議会が

設置されると同協議会の委員に就任、在任中の尽力により町村合併協定調印式を迎えるに至りました。

また、平成15年から阿蘇広域行政事務組合議員、平成17年から2年間は同組合議長を務めると、汚泥再生処理センター施設建設事業の推進を積極的に支持し、「大阿蘇環境センター―蘇水館―」の稼働に尽力されました。



故甲斐正巳氏

甘いイチゴに大喜び 園児をイチゴ狩りに招待

坂梨の岡田孝七さん

坂梨のイチゴ農家岡田孝七さんが6月18日、坂梨保育園の園児をイチゴ園に招待。年中、年長児21人がイチゴ狩りを楽しみました。

岡田さんは約20アールのビニールハウスでイチゴを栽培。子どもたちの食育に役立ててもらおうと、毎年同園児と坂梨小学校の児童を招待しています。

園児たちはハウスに入ると「甘くていい匂いがする」と大喜び。岡田さんからイチゴの採り方を習ったあと、赤く色付いた実を探し「あった!」と歓声を上げながら摘み採っていました。

収穫した約10キロのイチゴはお土産にいただき、園のおやつやジャムづくりに使います。



災害に対する心構えを 第1回防災講座

一人ひとりの災害に対する危機意識を高めようと6月15日、農村環境改善センターで防災講座が行われ、約70人が参加しました。講座は、熊本県生涯学習推進センターと市が共同で開催したもので「あなたは避難しそうですか? いざというときに心の備え」と題し、熊本県立大学教授の明

石照久氏が講演。自治体職員の経歴を持つ同氏は、平成7年に発生した阪神淡路大震災時の自らの体験をもとに「巨大な災害では、地域の支え合いこそが頼りになる。日頃からコミュニケーションを深めることが重要だ」と人とのつながりや災害前の心構えの重要性を訴えました。

8月31日、10月5日にも講座が予定されています。ぜひご参加ください。



講演する明石氏



スタッフから指導を受けて、懸命に歯の汚れを落としました

歯について楽しく学ぶ 第15回阿蘇の歯まつりin 阿蘇市

子どもの虫歯予防をテーマに、正しい虫歯予防策などを学んでもらおうと6月15日、阿蘇保健福祉センターで第15回阿蘇の歯まつり（阿蘇保健所主催）が行われ、親子連れなどで賑いました。各ブースには、専用器具で歯の汚れを落とす体験コーナーや、人気キャラクターをかたどった石膏の色塗りコーナーなどが催され、子どもたちは楽しみながら歯の健康について

学んでいました。また、80歳で20本以上の健康な歯をもつ人を表彰する、8020健診優秀者の表彰も合わせて行われました。阿蘇市の受賞者は次のとおりです。

おめでとうございます！
32本の健康な歯！



阿蘇郡市 8020 最優秀者
石田 武さん (80歳)

このたびはこのような賞をいただくことができ、とても光栄に思います。小学校の皆勤賞から人生で2度目の表彰となります。

歯について特に気をつけていることはありませんが、甘いものは一切食べません。現在もむし歯はなく、健康に生活することができています。この年になっても自分の歯があることが嬉しいです。

● 8020 達成者一覧 (敬称略、順不同)

氏名	年齢	行政区	氏名	年齢	行政区	氏名	年齢	行政区
石田 武	80	上西河原	佐藤 昭三	83	狩尾2区	室屋 ツジ子	93	竹原
市原 四雄	82	分2区	佐藤 ミエ子	81	狩尾2区	森 タドル	85	下役犬原
上島 トキエ	81	永草	中嶋 正光	80	成川	森 美智子	83	道尻
江藤 敏幸	82	北黒川	長濱 典雄	84	上西黒川	山部 サダエ	88	塩塚
江藤 光則	84	上西黒川	古寺 又美	83	古神2区	山本 ミヨ子	88	赤水
久保 サヨ子	86	今町	古寺 ミツコ	81	古神2区	和田 きみ子	80	本村
酒井 國夫	90	桜町	益田 久己	83	跡ヶ瀬			
坂梨 直子	83	内牧4区	松永 幸子	80	乙姫			

※年齢は表彰をした6月15日時点。

野焼きや災害避難時の物品を整備

― 宝くじ「コミュニティ助成事業」 ―

車帰区がこのほど、野焼きや災害時に使用する動力噴霧器や発電機・灯光機などを、宝くじの助成金（コミュニティ助成事業）を活用し、整備しました。



このコミュニティ助成事業は、地域社会の健全な発展を図ることを目的に、社会貢献広報事業費を財源として財団法人自治総合センターが助成を行うものです。

車帰区の山本孝徳区長は、「動力噴霧器の導入で、円滑に野焼き作業を行うことができる。また、災害時に住民が安心して避難所生活を送

れる環境を整えることができました」と話していました。



高低差500mの難コースに過去最多のランナーが挑む 第23回阿蘇カルデラスーパーマラソン大会

〔阿蘇市の完走者〕

● 100 ^{キロ} 男子	
山本 眞一	川路 輝彦
● 50 ^{キロ} 男子	
山本 武史	松野 義信
北里 淳也	井 大士
下村 将文	家入 諭
鷲津 進	大和 真二
堀川 淳	上野 太郎
牛尾 優佑	高日 健介
梶原 悠司	
● 50 ^{キロ} 女子	
堀川 美奈子	

(敬称略)

阿蘇の雄大な外輪山を走るコースを舞台に行われる阿蘇カルデラスーパーマラソン大会が6月2日行われ、過去最多の1775人以上がエントリーし、阿蘇の大地を駆け巡りました。

本大会は、阿蘇広域行政事務組合主催で行われるもので、50^{キロ}と100^{キロ}の2コースを設定。高低差500mを超える難コースとして、平成2年の大会開始以来、徐々に知名度も上がり全国各地からランナーが集う人気の大会となっています。今年で23回目を迎えた今大会は、ときおり激しい雨が降るあい



沿道からの声援に応えながら力走する山本さん（波野支所付近にて）

この天気となりましたが、雨風をものともせず力強く走るランナーに、沿道から温かい声援が送られました。阿蘇市からは16人のランナーが完走。今回、20回目の出場となった山本眞一さん（西小倉）は、災害からの復興を願い力走し、沿道からの声援に応え見事100^{キロ}完走を果たしました。

災害から11カ月ぶり営業再開

一の宮町温泉センター



「この風呂がよか！」と久しぶりの温泉を楽しんでいます。

隣接する高齢者センター、デイケアセンターは7月上旬に再開予定となっています。地元住民の憩いの場として親しまれている同施設。多くの皆さんのお越しをお待ちしています。

昨年の豪雨災害で被災し休館していた一の宮温泉センター（一の宮町手野）の復旧工事が完了し6月5日、約11カ月ぶりに営業を再開しました。一の宮温泉センターがある手野地区は、昨年の災害で土砂崩れや浸水被害が大きかった地区。それまで同施設を利用していた市民は、市内の他の温泉施設を利用するなどして、再開を心待ちにしていました。再開初日には待ちわびた常連客が多数訪れ「やっぱ

同施設を管理する 市社会福祉協議会の後藤健蔵さん



久しぶりにお客さんと再開できることが何よりも嬉しい。7月には全施設が再開するので多くの人に来てもらいたいです。